日本野生動物医学会誌（Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine）投稿規定

1. 日本野生動物医学会誌について

本誌は，野生動物または動物園動物の動物医学あるいは保全医学に関する学術発展の推進に寄与する未発表の和文または英文の原著論文（Full paper），総説（Review article），研究短報（Research note），技術短報（Technical note），症例報告（Case report），ならびに本学会大会のシンポジウムや自由集会等の内容をまとめた特集論文（Special articles）を掲載する。その他，学会誌編集委員会で，会員に有用と判断された情報を資料（Practical information）として掲載する。特集論文は，企画者が代表者となりすべての論文を取りまとめ，体裁を整えた後，一括して代表者が投稿する。

全ての投稿論文は，編集委員および複数の審査員によって審査され，編集委員長が採否を決定する。研究遂行にあたって倫理面の問題が認められる論文は採択しない。

掲載は原則として審査終了順とする。本誌は年２回の発行（３月，９月）を基本とするが，投稿論文数が多い場合には年３回もしくは４回発行する場合がある。これと別に年次大会の要旨集を Supplement として年１回発行する。これら以外に，会員に有用と思われる課題に対して複数の投稿論文を集めた特集号（Special issue）を発行する場合がある。特集号については，企画者からの事前相談を受けて学会誌編集委員会で検討し，特に必要と認めた場合に発行する。

2. 原稿の作成方法（和文原稿，英文原稿共通）

1）原稿は１部提出する。原稿はすべて Microsoft Word 等で作成し，原稿を学会誌編集委員会宛に電子メールの添付ファイル等で提出する。学会誌編集委員会より１週間程度で受付確認のメールを送信する。受付確認メールが届かない場合は，メール送受信の不具合が発生している可能性があるため，再度連絡いただきたい。

2）原稿は，A4 判縦長とし，１ページ 30 行とする。用紙の周囲には 25 mm の余白をあけ，各ページ左端余白に，すべての行に行番号（ページごとではなく，全体を通した連続番号）を付ける。これらを設定した Word ファイルを学会ホームページに掲載しているので参考にしていただきたい。

新仮名使いで，学術用語以外は常用漢字を用い，改行は行頭１字分をあけて書き出す。英数字は半角文字，句読点やカッコは全角文字とする。

3）原稿第１ページには，希望論文区分として，原著，総説，研究短報，技術短報，症例報告，特集（大会時の内容の特集は，発表した大会名と年月日，シンポジウムや自由集会等のタイトルも明記する），資料のいずれかを記載する。

希望審査分野として，解剖学，系統分類学，遺伝学，生化学，生理学，毒性学，免疫学，細菌学，ウイルス学，寄生虫学，病理学，感染症学，公衆衛生学，内科学，外科学，繁殖学，行動学，生態学，個体群動態学，飼養学，野生動物管理学，海棲哺乳類学などを記す。ここに該当する適切な審査分野名がない場合は，適宜，分野名を提示することができるが，審査の過程で変更を提案することがある。これらの分野名は掲載論文の冒頭に表示される。

次に，論文題目（Title），著者名（Author（s）），所属機関名（Affiliation（s））とその郵便番号および住所（Address（es）：都道府県名から記載），内容を簡略に示した20字以内の略題（Running head），責任著者（Corresponding author）の氏名およびメールアドレス，所属の変更がある場合は現所属名を記す。

4）第２ページには，要約（原著，総説，特集および資料では 600 字以内，研究短報，技術短報および症例報告では 200 字以内；１パラグラフにまとめる）とキーワード（原著，総説，特集および資料では５語以内，研究短報，技術短報および症例報告では３語以内，ローマ字表記時のアルファベット順）を記載する。

英文原稿の場合，ABSTRACT は，原著，総説，特集および資料では 240 語以内，研究短報，技術短報および症例報告では 120 語以内，KEY WORD（S）は和文の場合と同様の単語数で，アルファベット順とする。

5）第３ページ以降の記述の順序は，原著では，序論（INTRODUCTION），材料と方法（MATERIALS AND METHODS），結果（RESULTS），考察（DISCUSSION），謝辞（ACKNOWLEDGMENTS），引用文献（REFERENCES）とし，表（TABLE（S）），図の題目と説明（FIGURE LEGEND（S）），図（FIGURE（S）），英文の ABSTRACT（英文原稿の場合は和文要約）を後につける。可能な限り，本文・図表・英文 ABSTRACT（英文原稿の場合は和文要約）を含めた１つの Word ファイルとして保存する。総説，特集および資料では適宜項目名を付して読みやすいように配慮する。研究短報，技術短報および症例報告では，引用文献を除いてこのように項目分けをしない。

英文の ABSTRACT には，Full paper（原著），Review article（総説），Research note（短報），Technical note（技術短報），Case report（症例報告），Special articles（特集）および Practical information（資料）の区分と，英文表記で論文題目，著者名，所属機関名とその郵便番号および住所，要約とキーワード（要約とキーワードの文字数と単語数等は２－４を参照），責任著者の氏名およびメールアドレス，所属の変更がある場合は現所属名を記す。英文原稿の場合はこれらを和文表記で記す。

6）論文の長さは，刷上がりが原著，総説，特集および資料では 10 ページ以内（特集が複数の論文からなる場合は論文ごとに 10 ページ以内），研究短報，技術短報および症例報告では４ページ以内とする。特集論文では，その企画者が，企画趣旨と各論文の一覧（題目と著者名等）を紹介する，刷上がり１～２ページ程度の原稿（特集論文の趣旨説明）を作成する。

7）動植物・微生物の学名は初出時に必ず記し，学名を含むイタリック体（斜体）で印刷されるべき箇所は斜体で記す。

8）略字を使用するときは，初出時に完全な語を掲げ，そのあとに略字をカッコで括って掲示する。数字は算用数字を，単位は原則として国際単位系（SI）を用いることを基本とする。単位記号としては，M，mM，μM，N，%，m，cm，mm，μm，nm，pm，cm^2，L，mL，μL，kg，g，mg，μg，ng，pg，hr，min，sec，msec，rpm，Hz，Bq，mBq，μBq，kBq，cpm，dpm，ppm，°C，J，KJ，lux，CPE，LD などを用いる。英数字はすべて半角で表示し，数字と単位の間に半角スペースを入れる（% と °C を除く）。

9）引用文献は引用順に番号をふり，本文および図表の説明中には文献番号（例［1］，［1-3］，［3-5,7］）を記す。著者名を主語とする場合は「佐藤［1］は，…（Sato [1] reported…）」などとし，著者２名または３名以上の場合はそれぞれ「佐藤・鈴木［1］，佐藤ら［1］（※英文の場合は Sato and Suzuki [1]，Sato et al. [1]）」のよ

Presented by Medical*Online

うに記載する。早期公開電子版等の出版年未定の文献を引用する場合は，「田中（印刷中）」または「Tanaka (in press)」のように記し，引用文献欄には著者，論文標題，DOI を記載する。

引用文献欄では番号順に並べ，以下の要領にしたがって記す。

英文学術誌名の省略は，標準略称を定めた国際規格 ISO4 に準拠する。

＜英文原著論文＞

Brunnert SR, Citino SB, Herron AJ, Altman NH. 1992. Hepatic coccidiosis in chamois (*Rupicapra rupicapra*). *J Zoo Wildl Med* 23: 276-280.

＜英文書籍の章＞

Wimsatt WA. 1963. Delayed implantation in the Ursidae, with particular reference to the black bear. In *Delayed Implantation* (Enders AC ed), pp. 49-86. Univ of Chicago Press, Chicago.

＜英文書籍＞

Russell LD, Griswold MD. 1993. *The Sertoli Cell*. Cache River Press, Clearwater, 826pp.

＜和文原著論文＞

南　正人，大西信正，高槻成紀，濱　夏樹．1992．金華山におけるニホンジカの大量捕獲と保定．*哺乳類科学* 32：23-30.

＜和文書籍の章＞

高槻成紀．1996．普通種の保全と管理．*保全生物学*(樋口広芳編)，pp.191-220．東京大学出版会，東京．

＜和文書籍＞

羽山伸一．2001．*野生動物問題*．地人書館，東京，256 pp.

＜インターネット上の情報＞　文献として公表されていないもので，公的機関の情報に限る。最終閲覧日を記載する。

環境省．2023．生物多様性国家戦略 2023-2030．https://www.env.go.jp/content/000124381.pdf（2023 年 5 月 27 日確認）

10）図や表は，それぞれ単独でも，ある程度理解できるように適切な題目と説明（適宜，脚注）をつける必要がある。図のうち特に写真について，できる限りセットとなるものは独立した図番号とせず，a, b, c などの記号を適宜付して 1 つの図のまとまりとする。その際，写真 a, b, c についても個別の説明をつけ，全体の図のセットにも題目をつける必要がある。表には，縦罫線を使用せず，脚注を要するときは，表示の語句の右肩に 1)，2)，3）を付記し，表の下欄外にそれぞれの説明を記す。表については，掲載決定後に，出版社が組版しやすいように，画像データではなく，Excel ファイル等の文字データを抽出できるものの提出を求める場合がある。

3. 研究倫理等に関する事項

1）二重投稿および類する投稿論文の扱い

原稿の全部または一部が公表済あるいは掲載決定している場合は二重投稿とみなし，投稿を受け付けない（査読中に判明した場合は却下する）。ただし，著者自身の以下に挙げる著作物はこの限りではない。

- 国公立機関及び民間企業等の業務報告書（受託研究報告書含む）
- 研究助成金に対する成果報告書
- 学位論文（学術機関リポジトリに公開されたものも含む）
- プレプリントサーバーへ登録された原稿（他の学術誌等に投稿されたことのない一次原稿のオリジナル版のみ）

2）図・写真その他における著作物の転載

著者（ら）以外の著作物を転載する場合には，著作権者から事前に許可を得なければならない。転載許可書（自由書式）の写しを投稿時に添付すること。

3）動物福祉への配慮

動物や動物に由来する試料を使用する研究は，著者の所属機関の倫理規定に従い，必要に応じて当該機関の審査組織（動物実験委員会等）より許可を得ることが望ましい。ただし，以下の場合は，本学会もしくは関係機関が策定したガイドライン等を遵守することを基本とする。（参考：「野生動物医学研究における動物福祉に関する指針」https://www.jjzwm.com/guideline/）。必要に応じて，学会誌編集委員会から本学会の野生動物保全・福祉委員会に意見照会を行う。

- 著者の所属機関に倫理規定がない（所属機関に審査組織が存在しない）場合
- 著者の所属機関の審査組織より審査対象外とされた場合
- 著者が特定の機関に属さず研究を行う場合

4）その他

上記 1）から 3）以外においても，研究倫理上の疑義がある投稿については，学会誌編集委員長より著者に確認する場合がある。

4. 投稿料および著者負担金

筆頭著者もしくは責任著者が学会員（正会員，学生会員，団体会員）である場合，投稿料を無料とする。筆頭著者もしくは責任著者のいずれもが非会員である場合の投稿料は 1 編につき 15,000 円とする。投稿料は，論文採択後，学会の請求により指定の口座に振り込むこととする。ただし，学会誌編集委員会が依頼した総説および特集論文については投稿料を必要としない。次の費用は著者負担とする。論文掲載後に，学会事務局から投稿料とともに請求書が送付される。

1）学会誌編集委員会で必要と認めた場合の英文校閲料など

2）本規定の制限ページ数を超過したとき，超過の組版および印刷費の全額（当分の間，1 ページにつき 20,000 円）

3）カラー印刷の実費。カラーの図表等に対し，モノクロ印刷を希望した場合でも，J-STAGE 公開の PDF 版では，校正時に申し出ることにより無料でカラーに変更することができる。

4）論文の印刷に際して学会誌編集委員会が著者原図が印刷に不適当と認めた場合のトレース代

5）別刷代（当分の間，50 部毎に 6,500 円）

5. 版権

掲載された論文の版権は学会に属するものとする。図表の転載は学会の許可を必要とする。転載の必要がある場合は，本学会事務局まで事前相談する。

6. 原稿の送付先

原稿の送付（原則としてメールでの投稿に限る）および投稿に関する照会は下記宛とする。

〒 501-1193　岐阜県岐阜市柳戸 1-1
岐阜大学応用生物科学部　動物繁殖学研究室内
日本野生動物医学会学会誌編集委員会　楠田哲士
E-mail　kusuda.satoshi.y5@f.gifu-u.ac.jp

2023 年 9 月 23 日　改訂

Presented by Medical*Online